

防疫・治療

近年の飼養規模の拡大などにより、伝染病などの感染を予防することはとても重要になってきています。また、一方で食品の安全性に対する関心も高まっており、産業動物医療のさらなる向上が求められています。

牛切手にも防疫の大切さを呼びかける図案があり、飼養管理の中から抜き出して紹介します。タイで1995年に発行された切手は、獣医学60年を記念するもので、獣医師がホルスタイン種に注射をしようとしているところです。ココス諸島の切手は、島にウシの伝染病が入らないよう検疫所の業務を周知する図案ですが、エルサルバドルで発行された切手は、より具体的なもので、口蹄疫の感染拡大に警鐘を鳴らす図案となっています。口蹄疫は、ウイルス感染によって偶蹄類の口周囲と蹄部に水疱が生じる病気で、家畜伝染病予防法により法定伝染病に指定されています。日本でも2000年（92年ぶりの発生）と2010年に発生し、2010年の流行では優秀な種雄牛をも含め、ウシとブタを合わせて約29万頭が殺処分され、畜産業界に甚大な被害と衝撃を与えました。

国連ジュネーブ事務局の切手は、ボランティアによるウシの治療です。

東アフリカ（タンザニア、ウガンダ・ケニア）の切手は、牛疫の撲滅キャンペーンにかかるものです。牛疫は非常に感染力が強く死亡率の高い病気で、口蹄疫と同じく家畜伝染病予防法により法定伝染病に指定されています。国連食糧農業機関（FAO）と国際獣疫医事務局（OIE）による撲滅キャンペーンの結果、2011年5月に撲滅が宣言されました。これは、人間の天然痘に次いで2例目の感染症撲滅であり、現在、牛疫ウイルスは自然界には存在せず、研究施設で保存されています。